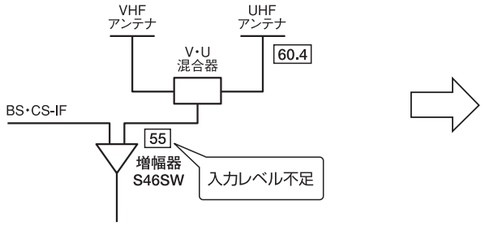
③UHF前置増幅器接続例

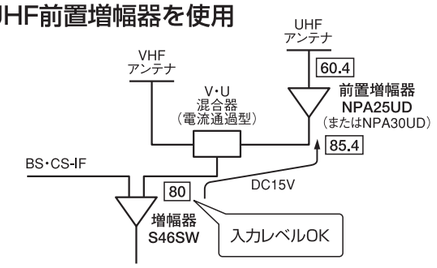
□ 内は信号レベル（dBμV）、数値は一例です。
770MHz（アナログ）の値

●弱電界地域



上記のように弱電界地域や、設置環境によりUHFアンテナから本器までのケーブル長が長く、適正入力レベルを確保できない場合にご使用ください。

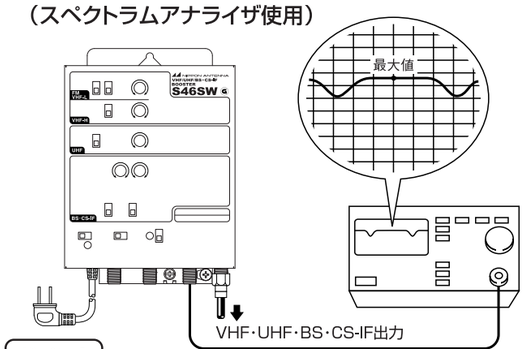
●UHF前置増幅器を使用



ポイント
- ●前置増幅器はアンテナ直下に挿入してください。
- ●増幅器S46SWと前置増幅器のケーブル長は、100m以下（S-7C-FB相当）にしてください。
- ●V・U混合器は、電流通過型の物をご使用ください。（電通はUHFのみに設定してください。）

④デジタル放送波の出力レベル確認方法

（スペクトラムアナライザ使用）



ポイント
- ●デジタル信号レベルは、デジタル対応のレベルチェッカーまたは、チャンネルパワーの測定可能なスペクトラムアナライザでご確認ください。
- ●チャンネルパワーなどの機能のないスペクトラムアナライザでデジタル信号を測定する場合は、それぞれ右のようにおこなってください。
- ●補正値はスペクトラムアナライザの機種により、若干変わる場合があります。

●デジタル放送波の出力レベルを確認する場合、次のようにおこなってください。

スペクトラムアナライザを出力モニター端子に接続します。
↓
確認したいチャンネルをセンターに合わせます。

●衛星放送の場合	●地上波の場合
スペクトラムアナライザは、SPAN（表示周波数幅）50MHz、RBW（分解能帯域幅）1MHz、VBW（映像フィルター）300Hzに設定します。	スペクトラムアナライザは、SPAN（表示周波数幅）10MHz、RBW（分解能帯域幅）100kHz、VBW（映像フィルター）1kHzに設定します。
最大値に補正値を加えた値が出力レベルになります。 ●BS・110度CSデジタルの補正値 16.3dB	最大値に補正値を加えた値が出力レベルになります。 ●地上デジタルの補正値 19.2dB

↓
出力モニター端子レベル＝スペクトラムアナライザの最大値＋補正値

お客様窓口専用ダイヤル	(03) 3893-5243	ご利用時間　9:00～18:00（土・日・祝祭日・弊社休業日を除く）

情報通信が仕事です。
日本アンテナ株式会社
本社／〒116-8561 東京都荒川区西尾久7-49-8 ☎(03) 3893-5221（大代）
ホームページアドレス http://www.nippon-antenna.co.jp/

※製品改良のため、仕様、外観の一部を予告なく変更することがあります。

D842048600　平成22年9月

保　証　書

型名		製造番号	
お客様	お名前		
	ご住所 電話番号　（　　）		
お買上げ日 年　月　日	取扱販売店名・住所・電話番号		
保証期間（お買上げ日より） 本体1年 （但し消耗品は除く）			

この保証書は、本書記載内容で無料修理をおこなうことをお約束するものです。なお弊社支店・営業所・出張所は別紙の店所一覧をご覧ください。

〈無料修理規定〉

1. 取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書に従った正常な使用状態で保証期間内に故障した場合には、無料修理をさせていただきます。
   ①無料修理をご依頼される場合は、商品に本書を添えてお買い上げの販売店にお申し付けください。
   ②修理対象品を直接当社支店・営業所・出張所まで送付された場合の送料はお客様負担とさせていただきます。また、出張修理をおこなった場合、出張料はお客様負担とさせていただきます。

（裏面に続きます）

日本アンテナ株式会社
本社 〒116-8561 東京都荒川区西尾久7-49-8
☎(03) 3893-5221（大代）

日本アンテナ

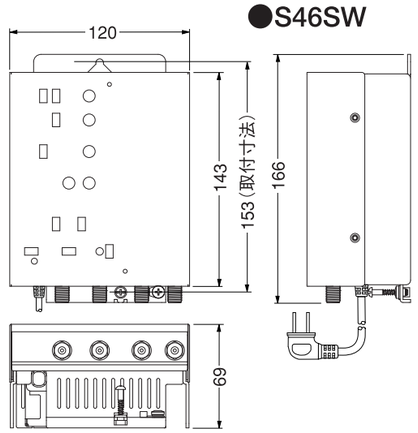
取扱説明書・施工説明書
—保証書付—

このたびは、日本アンテナ製品をお買い上げいただきありがとうございます。ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。工事の際には施工説明書に従って施工を行なってください。
お読みになった後は、いつでも見られるところに必ず保存してください。また、正しく安全にお使いいただくため、ご使用前に必ず「安全上のご注意」をごらんください。

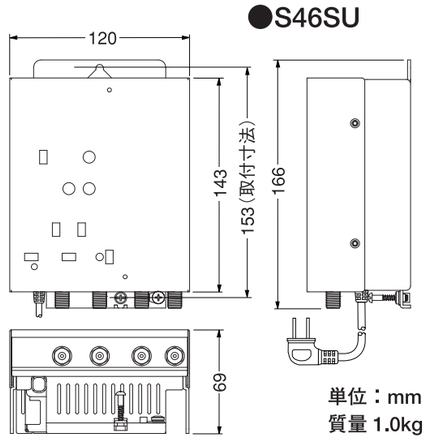
取扱説明書

外観および寸法図

●S46SW



●S46SU



単位：mm
質量 1.0kg

屋内用 CS・BS・UHF・VHF・FM増幅器 Model S46SW
屋内用 CS・BS・UHF増幅器（VHFパス） Model S46SU

目　次

表紙　　説明の始まるページ
〔取扱説明書〕
外観および寸法図……1
取扱上の注意……1
メンテナンス……1
安全上のご注意……2
特長……3
各部の名称および機能……3
標準性能表……4
ブロックダイヤグラム……4
〔施工説明書〕
関連法規……5
設置場所・条件……5
収納箱への設置……5
取付方法……5
同軸ケーブルの加工方法とF型接栓の取付方法……6
ケーブルの接続……6
イタズラ防止パネルについて……6
調整方法……7
保証書……8

取扱上のご注意

電気工事には専門の資格が必要です。
取付工事は、専門の施工業者にご依頼ください。

メンテナンス

いつでも美しいテレビ映像をお楽しみいただくために、年に1回は専門業者に保守・点検をご依頼ください。

安全上のご注意

絵表示について

この「安全上のご注意」、「取扱説明書」および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、お使いになるかたや他の人への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。
絵表示の例	
⚠	△記号は注意（注意・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容（左図の場合は警告または注意）が描かれています。
	⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
	●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください。）が描かれています。

⚠警告

●ぐらついた台の上や、傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。

●表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。また、同軸ケーブル重畳方式にて動作可能な機器は、表示された重畳電圧を供給してください。その際は電源プラグをコンセントから抜いてご使用ください。

●本器に水が入ったり、本器の内部がぬれたりしないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。

●万一、本器を落としたり、破損した場合は、機器本体の電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

●雷が鳴りだしたら、アンテナ線、機器には触れないでください。感電の原因となります。

接触禁止

●電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したり（熱器具に近づけたり）引っぱったりしないでください。電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。

●電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのままご使用になると火災・感電の原因となります。

●本器の上面カバー（接続端子部カバーは除く）をはずしたり、本器を改造したりしないでください。
また、本器の内部には触れないでください。火災・感電の原因となります。内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。

分解禁止

●万一、煙が出ている、変な臭いがするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。

●万一、異物が本器の内部に入った場合は、まず、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
（特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。）

⚠注意

●湿気やほこりの多い場所、油煙や湯気が当たるような場所（調理台や加湿器のそば）に置かないでください。また、振動のある場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

●本器の上に重いものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。また、本器が変形し、火災・感電の原因となることがあります。

●直射日光の当たる所、温室やサンルームなどの温度や湿度の高いところに置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

●電源プラグを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。
電源コードを引っぱるとコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

●ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。
感電の原因となることがあります。

●移動させる場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いて外部の接続コード（アンテナ線、機器間の接続コードなど）をはずしたことを確認の上、おこなってください。
コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

調整方法

①レベル調整手順

●入力ATT、利得調整でも補えない場合は、別売のアッテネーター（DC15V送電時は電流通過型）を入力端子側で使用してください。

●出力モニター端子は出力レベルより20dB少ない値を示しますが、出力端子が開放状態や、施設の電圧定在波比が悪い場合は、出力モニター端子レベルが不正確になりますので、より正確なレベル測定をおこなう場合は、出力端子をご使用ください。

手順1　入力レベルの調整
本器の入力端子にケーブルを接続する前に、入力レベルの確認をおこないます。適正入力レベルより高い場合は、入力ATTで適正入力レベル範囲内に調整してください。

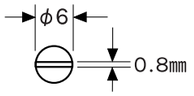
手順2　出力レベルの調整
出力モニター端子を使用し、利得調整、チルト（BS・CS-IF帯域）で標準出力レベル以下で所要のレベルに調整してください。

⚠注意

●利得調整などのボリュームのツマミは、径φ6mm以下のマイナスドライバーあるいは、調整用ドライバーを使用し、軽く回る範囲内で回してください。無理に回したり、押しつけると機器の故障の原因となります。

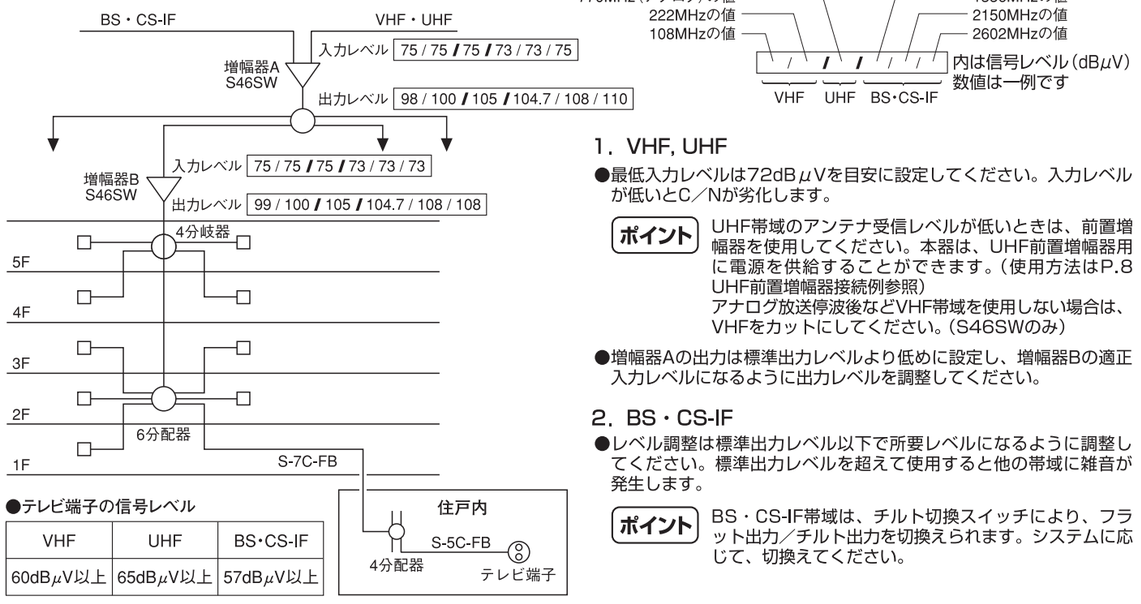
●入力レベルを適正入力レベルよりも高くすると故障の原因となります。
また、ブロックノイズ（デジタル放送の場合）などの障害が生じることがあります。
特にBS・CS-IF帯域の場合は、BS・CS放送自体に障害が出なくても、他の帯域に障害が生じることがあります。

●ボリュームの寸法



②5階建て2602MHzシステム設計例（C4−D6システム）

●40戸　住戸内4分配器テレビ端子2端子型



●テレビ端子の信号レベル

VHF	UHF	BS・CS-IF
60dBμV以上	65dBμV以上	57dBμV以上

1．VHF, UHF

●最低入力レベルは72dBμVを目安に設定してください。入力レベルが低いとC／Nが劣化します。

ポイント　UHF帯域のアンテナ受信レベルが低いときは、前置増幅器を使用してください。本器は、UHF前置増幅器用に電源を供給することができます。（使用方法はP.8 UHF前置増幅器接続例参照）
アナログ放送停波後などVHF帯域を使用しない場合は、VHFをカットにしてください。（S46SWのみ）

●増幅器Aの出力は標準出力レベルより低めに設定し、増幅器Bの適正入力レベルになるように出力レベルを調整してください。

2．BS・CS-IF

●レベル調整は標準出力レベル以下で所要レベルになるように調整してください。標準出力レベルを超えて使用すると他の帯域に雑音が発生します。

ポイント　BS・CS-IF帯域は、チルト切換スイッチにより、フラット出力／チルト出力を切換えられます。システムに応じて、切換えてください。

2．保証期間内でも次の場合には有料修理とさせていただきます。
①使用上の誤りおよび不当な修理や改造による故障および損傷。
②お買い上げ後の取付場所の移設、輸送、落下などによる故障および損傷。
③火災、爆発事故、落雷、地震、噴火、水害、津波など天変地異または戦争、暴動等破壊行為による故障および損傷。
④海岸付近、温泉地等の地域における公害、塩害、ガス害（硫化ガスなど）など腐食性の空気環境に起因する故障および損傷。
⑤ねずみ、昆虫などの動物の行為に起因する故障および損傷。
⑥異常電圧、電気の供給トラブルなどに起因する故障および損傷。
⑦用途以外で使用した場合の故障および損傷。
⑧塗装の色あせなどの経年変化または使用に伴う摩擦などにより生じる外観上の現象。
⑨消耗部品の消耗に起因する故障および損傷。
⑩日本国以外で使用された場合の故障および損傷。
⑪本書のご提示がない場合。
⑫本書にお買上げ年月日、お客様名、販売店名の記入がない場合、あるいは字句を書き替えられた場合。
3．ご贈答品などで本保証書に記入の販売店で無料修理をお受けになれない場合は、最寄りの弊社支店・営業所・出張所にご連絡ください。
4．本書は日本国内においてのみ有効です。
（This Warranty is valid only in Japan）
5．本書は再発行いたしませんので大切に保管してください。

修理メモ

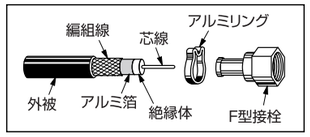
※この保証書は、本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従ってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は、お買い上げの販売店または最寄りの弊社支店・営業所・出張所にお問い合わせください。
※保証期間経過後の修理、補修用性能部品の保有期間については最寄りの弊社支店・営業所・出張所にお問い合わせください。

同軸ケーブルの加工方法とF型接栓の取付方法（別売品）

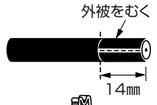
◆用意するもの

カッターまたはナイフ、ハサミまたはニッパー、ペンチ。

■各部の名称

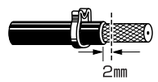


❶ カッター、ナイフなどで点線の部分をカットします。（深さ1㎜程度）



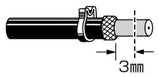
❷ 外被をむき、アルミリングを通しておきます。

❸ 外被から2㎜程度はなして編組線をていねいに切り落としてください。

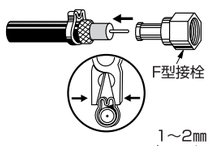


❹ 編組線をめくりあげます。

❺ 編組線から3㎜はなして絶縁体とアルミ箔を同時に切り、抜きとります。



❻ F型接栓をアルミ箔と編組線の間に挿入し、アルミリングをペンチなどでつまんでしっかりつぶしてください。



❼ 芯線の先端は1～2㎜出し、斜めにカットしてください。

芯線が長いと接続端子を破損する場合があります。

ポイント

- ●絶縁体をカットするときは芯線をキズつけないように注意し、芯線が編組線とアルミ箔に接触していないかをご確認ください。
- ●芯線に付着物がないか確認し、付着物がある場合には、きれいにとってください。
- ●芯線の外径が1.5mm以下の同軸ケーブルをご使用ください。外径が1.5mmより太い場合は、ピン付接栓をご使用ください。（※同軸ケーブルを取換える場合は、以前使用していた同軸ケーブルと芯線の外径が同じ同軸ケーブルをご使用ください。）

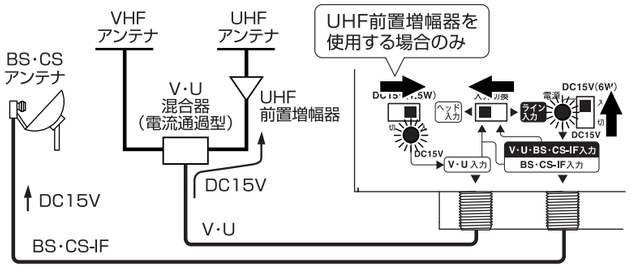
⚠注意　加工の際の、切りくずの扱いや工具の使用には十分注意してください。思わぬケガの原因となります。

ケーブルの接続

●ヘッド入力の場合

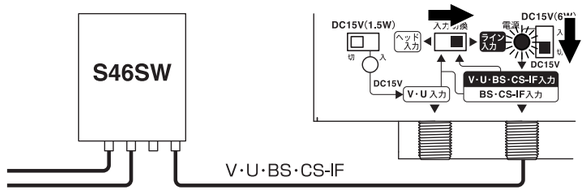
1. 入力切換スイッチをヘッド側に切換えます。
2. 図のようにケーブルを接続します。
3. 出力端子にBS・CS-IF、U・V信号出力用のケーブルを接続します。
4. BS・CSコンバーター用電源供給スイッチを「入」側にしてください。（橙ランプ点灯）
5. UHF前置増幅器を使用する場合は、UHF前置増幅器用電源供給スイッチを「入」側にしてください。（赤ランプ点灯）

※前置増幅器は、DC15V受電に対応した機器をご使用ください。



●ライン入力の場合

1. 入力切換スイッチをライン側に切換えます。
2. 図のようにケーブルを接続します。
3. 出力端子にBS・CS-IF、U・V信号出力用のケーブルを接続します。

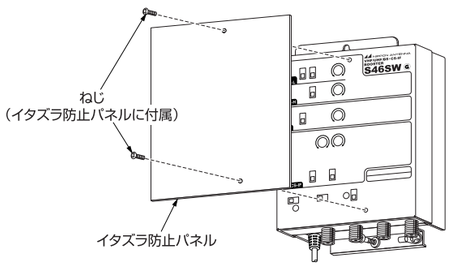


⚠注意

- ●コンバーターや前置増幅器への電源供給の際には、先にケーブルを接続してから電源供給のスイッチを「入」側にしてください。電源供給をしたままでのケーブルの接続は、機器の故障や障害の原因となります。
- ●F型接栓は軽く手で回した後、必ず指定のトルクで締めてください。トルクの過多・不足は機器の故障や障害の原因となります。

●F型接栓締付トルク　2.0N・m（約20kgf・cm）

イタズラ防止パネルについて



●調整後にイタズラ防止パネル（別売品）の取付けが可能です。

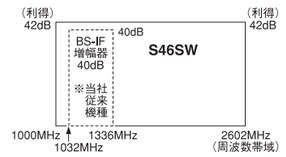
特　長

●S46SW、S46SU

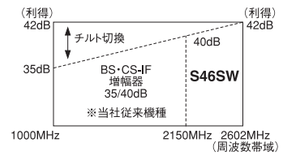
1. V・UとBS・CS-IFは混合1本入力のライン仕様、別入力のヘッド仕様のどちらにも使用できます。
2. 各帯域とも入力ATT、利得調整が付いていますので、レベル調整が容易におこなえます。
3. BS・CSコンバーター用として、DC15V（6W）を送電することができます。
4. BS・CS-IF帯域はチルト切換スイッチによりフラット出力／チルト出力が選択できますので利得40dBのBS-IFブースター、利得35／40dBのBS・CS-IFブースター、どちらの改修にも対応できます。また、チルトボリュームが付いていますので、ケーブル損失によるレベル差の調整が容易におこなえます。（右図参照）
5. UHF前置増幅器用として、DC15V（1.5W）を送電することができますので弱電界地域でも対応できます。
6. 出力モニター端子が付いていますので、放送を中断することなく、レベルチェックや利得調整ができます。
7. 付属の木ねじを使用して簡単に、しかも確実に壁面に取付けることができます。
8. イタズラ防止パネル（別売品）の取付けが可能です。

●BS・CS-IFチルト切換機能

BS-IF増幅器（利得40dB）の置き換え



BS・CS-IF増幅器（利得35/40dB（1000/2150MHz））の置き換え



●S46SW

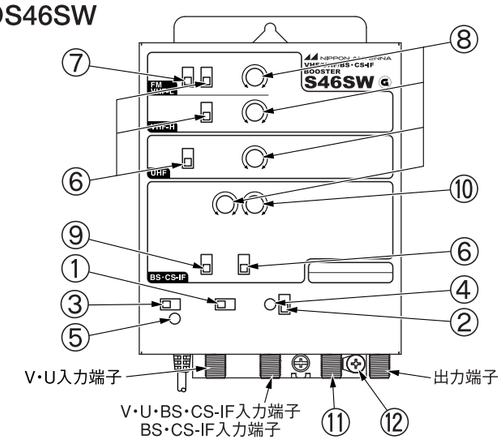
1. 本器はFM・VHF-L（76～108MHz）、VHF-H（170～222MHz）、UHF（470～770MHz）、BS・CS-IF（1000～2602MHz）を増幅する広帯域・高性能の小型ブースターです。
2. FMカットスイッチが内蔵されていますので、FMの強電界地域でも対応できます。
3. FM・VHF-L、VHF-H帯域には、それぞれにカットスイッチが付いていますので、アナログ放送の停波以降VHFに新たに割り当てられる電波などの不要な電波の飛び込みを遮断することができます。このとき、カットした帯域の電源はOFFになりますので消費電力を抑えることができます。

●S46SU

1. 本器はFM・VHF-L（76～222MHz）パス、UHF（470～770MHz）、BS・CS-IF（1000～2602MHz）を増幅する広帯域・高性能の小型ブースターです。

各部の名称および機能

●S46SW



※S46SUにはFM・VHF-L、VHF-Hの機能がありません。

●出荷時の設定

FM・VHF-L
（利得調整 最小、入力ATT －10dB、FMカット　切）
VHF-H
（利得調整 最小、入力ATT －10dB）
UHF
（利得調整 最小、入力ATT －15dB）
BS・CS-IF
（利得調整 最小、入力ATT －15dB、
チルト切換 入、チルト　0dB）
BS・CSコンバーター用電源供給スイッチ　切
UHF前置増幅器用電源供給スイッチ　切
入力切換　ヘッド入力

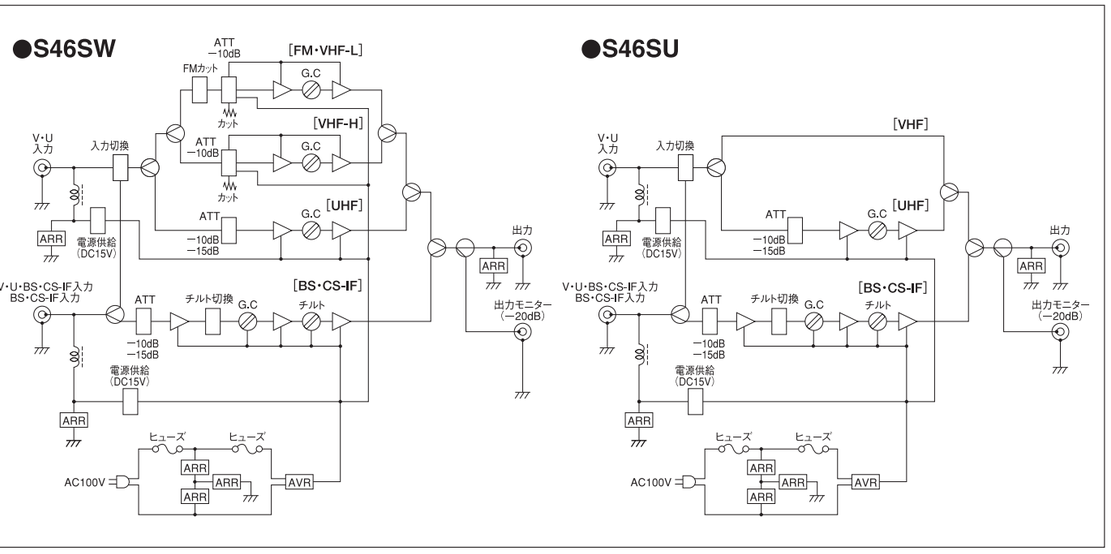
①	入力切換スイッチ	混合一本入力のライン仕様、別入力のヘッド仕様が選べます。
②	BS・CSコンバーター用電源供給スイッチ	BS・CSコンバーターへDC15V（6W）を供給できます。
③	UHF前置増幅器用電源供給スイッチ	UHF前置増幅器へDC15V（1.5W）を供給できます。
④	パイロットランプおよびBS・CSコンバーター用電源供給表示ランプ	電源を入れるとパイロットランプ（緑）が点灯します。BS・CSコンバーター用電源供給スイッチを「入」にするとランプが橙色に点灯します。送電時に異常があるときはランプは点灯しません。異常を取り除けばランプが点灯します。
⑤	UHF前置増幅器用電源供給表示ランプ	UHF前置増幅器用電源供給スイッチを「入」にするとランプが赤色に点灯します。送電時に異常があるときはランプは点灯しません。異常を取り除けばランプが点灯します。
⑥	入力ATTスイッチ	各帯域において信号をフラットに減衰できます。
	カットスイッチ	FM・VHF-L、VHF-H帯域をそれぞれ増幅、カットに切換えられます。
⑦	FMカットスイッチ	FM電波が強い時、レベルを下げることができます。
⑧	利得調整	各帯域の利得を調整できます。
⑨	チルト切換	BS・CS-IF帯域においてフラット出力／チルト出力が選択できます。
⑩	チルト	BS・CS-IF帯域において高い周波数の利得を変えずに低い周波数に向かって利得を下げることができます。
⑪	出力モニター端子	出力端子より20dB低い値を出力します。
⑫	機能アース端子	アース線はφ1.6～2.0mmの被覆銅線で完全に接地してください。接地が不十分ですと避雷回路が働かず、機器や施設の故障の原因になることがあります。

標準性能表

項目＼型名	S46SW				S46SU			備考
周波数帯域(MHz)	FM・VHF-L	VHF-H	UHF	BS・CS-IF	VHF	UHF	BS・CS-IF	
	76～108	170～222	470～770	1000～2602	76～222	470～770	1000～2602	
利得(dB)	※1 33～38	※1 38～43	43～48	42～47 チルト切換時 35～40/40～45/42～47 (1000／2150／2602MHz)	——	43～48	42～47 チルト切換時 35～40/40～45/42～47 (1000／2150／2602MHz)	
挿入損失(dB)	——				2以下	——		
利得調整範囲(dB)	0～−10				——	0～−10		連続可変
帯域内周波数特性(dB)	2.0以内		4.0以内	5.0以内	——	4.0以内	5.0以内	
利得安定度(dB)	±1.5		±2.0	±2.5	——	±2.0	±2.5	
入力レベル調整[ATT](dB)	−10		−10，−15		——	−10，−15		切換
周波数特性等価器[チルト](dB)	——			0～−10[1000MHz]	——		0～−10[1000MHz]	連続可変
適正入力レベル(dBμV)	72～82			70～80(24波) 75～85(24波、チルト切換時) 71～81(36波、チルト切換時)	——	72～82	70～80(24波) 75～85(24波、チルト切換時) 71～81(36波、チルト切換時)	
標準出力レベル(dBμV)	105(2波)	110(5波)	※2 115 (アナログ7波+デジタル9波)	112(24波) ※3 110／115(24波) ※4 106／113(36波)	——	※2 115 (アナログ7波+デジタル9波)	112(24波) ※3 110／115(24波) ※4 106／113(36波)	
雑音指数(dB)	4.5以下		6以下	10以下	——	6以下	10以下	最大利得時
入力・出力インピーダンス(Ω)	75				75			F型
電圧定在波比[VSWR]	2.0以下		2.5以下		2.0以下	2.5以下		
2次相互変調[IM2](dB)	−55以下		——	−31以下	——		−31以下	標準出力レベル
3次相互変調[IM3](dB)	−52以下	−58以下	−68以下	−59以下(24波) −63以下(36波)	——	−68以下	−59以下(24波) −63以下(36波)	標準出力レベル
混変調[XM](dB)	−46以下			——	——	−46以下	——	標準出力レベル
ハム変調(dB)	−60以下				−60以下			標準出力レベル
出力モニター(dB)	−20±1.5			−20±2.0	−20±1.5		−20±2.0	
耐雷性(kV)	±15(1.2／50μs)				±15(1.2／50μs)			
直流供給電圧(V)	——		DC15(±10%)1.5W V・U入力端子	DC15(±10%)6W BS・CS-IF入力端子	——	DC15(±10%)1.5W V・U入力端子	DC15(±10%)6W BS・CS-IF入力端子	
電源電圧(V)	AC100±10(50／60Hz)				AC100±10(50／60Hz)			
消費電力(W)	11.5 DC15V(6W)送電時 18.5 ※5 DC15V(7.5W)送電時 20.5				10.5 DC15V(6W)送電時 17.5 ※5 DC15V(7.5W)送電時 19.5			
使用温度範囲(℃)	−10～+40				−10～+40			本体周囲温度

※1 カット機能付
※2 デジタル信号−10dB運用
※3 1000／2150MHzの値(チルト切換時)
※4 1000／2602MHzの値(チルト切換時)
※5 V・U入力端子(1.5W)＋BS・CS-IF入力端子(6W)

ブロックダイヤグラム



施工説明書

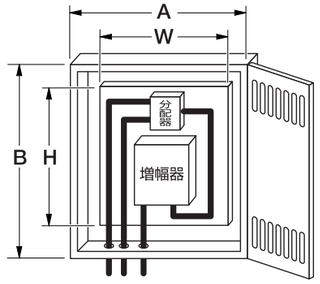
関連法規 この製品は有線テレビジョン放送法などが適用されます。

設置場所・条件

●水中や雨水のかかる場所、高温(40℃以上)の場所、有害ガスなどの発生する場所はさけてください。
●増幅器は発熱しますので、熱のこもる場所はさけ、通風のある場所に設置してください。
●電気配線、配線工作物の近くや、強い電磁波を受ける場所をさけてください。
●放熱のため、同軸ケーブルの引き回しにより換気孔を塞がないよう、ゆとりある収納箱に設置してください。
●メンテナンスに容易な場所を選定してください。

収納箱への設置

●収納箱に入れて使用する場合は、上下に防虫網付きの換気孔などのある収納箱で、下記寸法例の大きさのものを使用し、温度管理に十分注意してください。また、増幅器は収納箱の最上部を避け、換気孔より下側の位置に設置してください。



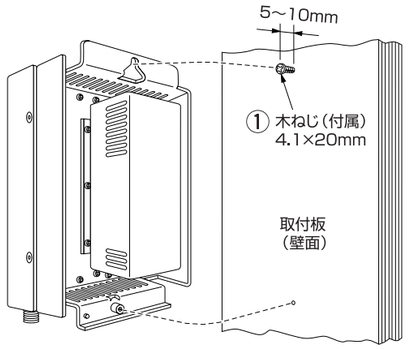
●推奨鉄箱(木板)寸法例　単位：mm

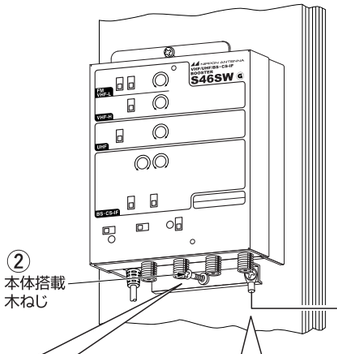
タイプ	箱		木板		種別
	A	B	W	H	
1	700	700	600	600	本器 1台 4分配器1個
2	1000	500	900	400	
3	500	1000	400	900	

※収納箱の奥行は140mm以上のものをご使用ください。

取付方法

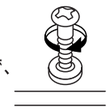
①付属の木ねじをねじ頭部分が少し浮くように木板に取付け、機器を引っ掛けてから本体上部を固定してください。
②上部を止めた後、本体下部をしっかりと固定してください。





⚠注意
本器は図のように必ず縦方向に取付けてください。指定外の取付けでは十分な放熱がおこなわれず、機器の故障の原因となります。

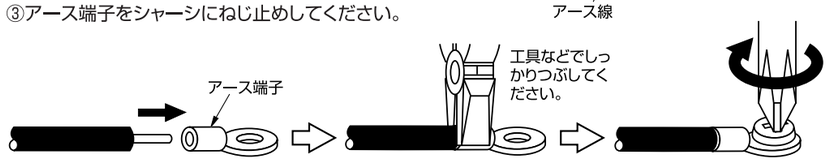
ポイント
本体下部にあらかじめ木ねじが付いていますので、簡単に取付けることができます。



⚠注意
アース接続は必ずおこなってください。接地がおこなわれないと機器の故障の原因となります。
(接地抵抗 100Ω以下:D種接地工事)

●アースのとり方

①アース線先端の外被をはがしてください。
②アース端子にアース線を通して、圧着工具でかしめてください。
③アース端子をシャーシにねじ止めしてください。



ポイント
アース線はφ1.6～2.0mmのIV線をご使用ください。